

Roy, Hippolyte. La vie, la mode et le costume au XVII^e siècle époque Louis XIII étude sur la cour de Lorraine. Paris, Édouard Champion, 1924. 553p. plates (mono.) 24.3×16.2 cm <383.135-R>

Hiler p. 763 Colas 2589

1924年、イポリット・ロワが、パリで出版した17世紀のロレーヌ宮廷における生活様式及び服装に関する研究書。ロレーヌ研究家の間では、著名なナンシーの「ムルト・エ・モーセル館」(Meurthe = et = Moselle)に保存されていたロレーヌ公爵家の会計記録簿に基づき、後年世界に影響を及ぼすことになるフランス的趣向及び宮廷生活の概括を照らし出そうと試みている。

11世紀以来、ロレーヌ地方に君臨したロレーヌ公爵家は、その居城をナンシーにおき、シャルル4世公の治世下、17世紀に最も輝かしい時代を迎えた。当時、中央ではルイ13世のフランス宮廷が華やかなところで、政治的な敵対心にもかかわらず、既に当時の文明国家へ影響を及ぼしはじめていたこのフランス宮廷から、室内装飾、衣装流行、作法習慣などをロレーヌ宮廷もまたコピーし、学んでいた。従って、本研究は、いまだよく知られていないロレーヌ宮廷の生活習慣・服飾を明らかにするだけでなく、フランスの服装史そのものでもある。

ロワは、すでに『アンリ2世時代のロレーヌ公爵家の生活』(1608—1624年)を完成しており、本書は、この研究を継続発展させたものである。また詩人としても知られる著者の、17世紀の文学を彷彿とさせる文章表現・用語は本書を格調高いものにしている。

内容は、公爵家の居城ナンシー宮殿の部屋を通じて、その室内装飾、様々な家具類の記述にはじまり、様々な織物類の用途、値段、性質、あるいは、当時流行した色合をも伝えている。

衣装に関しては貴族とその婦人たちの優雅な上着はもちろん、様々な変化が楽しまれた下着、旅行用の衣装・小物、羽毛に至るまでの多種多様のかぶり物、靴、宝飾品などが含まれ、さらに、これらを用いた人物が逸話をはさんで生き生きと描き出されている。

巻末に列記された、アルファベット順の17世紀の専門用語リストは、「フルチェール」(Fur-tière)、「リシュレ」(Richelet)、「サボワ」(Savoy)などの辞典を補うものとして便利である。

ナンシーで印刷され(Berge-Levrault)、1000部が限定出版されたが、第1～25はオランダ紙製、残りがベラム紙製である。この他に、非売品のオランダ紙による四部(I～IV)とプレス用にベラム紙製の50部が配布された。本書は第367番である。

なお序文は、クリスチャン・フィステル(Christian Pfister)、モーリス・ルロワール(Maurice Leloir)の水彩画一枚を含む27枚の挿画が本文の他に挿入されている。(深井)